

立ち読み版



特定非営利活動法人キャリアコンサルティング協議会会長
筑波大学教授

おかだ

まさき

岡田 昌毅さん

1959年生まれ。東京都立大学工学部卒業後、新日本製鐵株式会社(現、日本製鐵株式会社)入社。エンジニアを経て人材分野で仕事をしながら、筑波大学大学院教育研究科カウンセリング専攻(夜間社会人大学院)修了。2002年に新日鉄ソリューションズ株式会社(現、日鉄ソリューションズ株式会社)の人事に転籍、名古屋大学大学院教育発達科学研究科心理発達科学専攻修了。博士(心理学)。現在、筑波大学人間系・人間総合科学術院カウンセリング学位プログラム教授。2021年より、特定非営利活動法人キャリアコンサルティング協議会会長。著書に『働くひとの心理学』(ナカニシヤ出版)、『働くひとの生涯発達心理学』、『働くひとの生涯発達心理学Vol.2』(いずれも編著、晃洋書房)。

[写真] 安岡 嘉

個人のキャリア発達を支援する アカデミック・リーダー

[取材・文] 原 正紀

株式会社クオリティ・オブ・ライフ代表取締役、株式会社スマートバリュー(東証一部上場)社外取締役、キャリアコンサルティング協議会常務理事・事務局長、高知大学客員教授・経営協議会委員、成城大学非常勤講師、中小企業診断士。早稲田大学卒業後、株式会社リクルートを経て起業し、人材ソーシャルビジネスを展開。著書「定年後の仕事は40代で決めない!」(徳間書店)、「インタビューの教科書」(同友館)など多数。

HARA'S BEFORE

岡田さんは新日鐵でのビジネス経験を経て、大学院で修士・博士を取得、現在は筑波大学教授としてキャリアコンサルティングの普及に取り組む、キャリア発達支援のリーダー的存在である。

自らのキャリアチェンジも振り返ってもらいながら、今後の日本におけるキャリア発達のあり方を伺った。



「キャリア自律」とは

目の前の仕事に取り組むこと

原：個人のキャリア発達を支援する「キャリアコンサルティング」の普及に取り組まれていますね。

岡田：国家資格である「キャリアコンサルタント」は現在、6万人くらいいますが、いかに質の高い人材を増やしていくか、国家資格者として活躍できる人をどう確保して

いくのかという点に、エネルギーを投入することが必要だと思っています。働き方が急速に多様化してきた影響が大きいですね。個人が自分の力でしっかりと地に足をつけながら、キャリアについて考えることはとても重要になっています。それを支援することが、キャリアコンサルタントの大きな役割です。

筑波大学でも「キャリア・プロフェッショナル養成講座」を開講して、今年で4年半ほどになりますが、キャリアコンサルタントの質を高めていくことを目指しています。国家資格は取得したものの、面談スキルや組織に関わる力に不安があり、それをトレーニングする場が少ないとよく言われる中、将来の指導者を育成することが重要だと考えて実施してきました。

キャリアコンサルタントの質を高めるためには、キャリアに関する知識や心理学の基礎などを学ぶこと、数多くの実践経験を積むこと、面談スキルを高めて自信を持ってキャリア支援ができるようになるためのスーパービジョンを受けることが必要ですが、学ぶ場や自分を高める場が、まだ不足していると感じます。キャリアコンサルタントが面談を進めるにあたって、「本当に今の進め方でいいだろうか」と不安や疑問を